

農業技術センターニュース

目		次		
	施設果菜類のアブラムシ類防除に有望な土着テントウムシ類	…1	 ショウガ白星病の土壌からの伝染	…4
	ナバナの新たな出荷規格の検討	…2	 ナス・ピーマン品種のハイワイヤー栽培での適応性検定	…5
	ダリア切り花の品質に及ぼす糖の給液処理の影響	…3	 今年度の研修生を紹介します！	…6

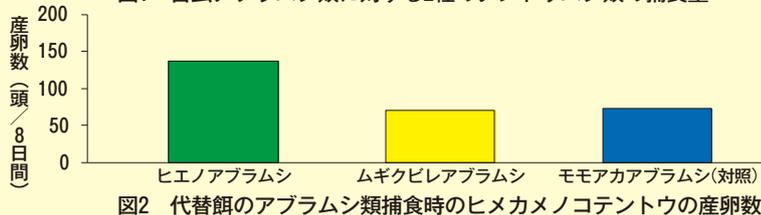
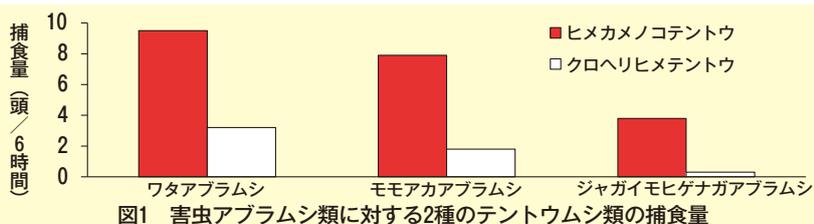
施設果菜類のアブラムシ類防除に有望な土着テントウムシ類



写真1 ヒメカメノコテントウ



写真2 クロヘリヒメテントウ



施設果菜類では、アブラムシ類防除に天敵寄生蜂が利用されていますが、種類により防除可能なアブラムシに限られるなどの問題があります。

そこで、多種類のアブラムシ類を食べる土着のヒメカメノコテントウ（ヒメカメノコ、写真1）とクロヘリヒメテントウ（クロヘリ、写真2）の成虫を用いて、ナス科果菜類で問題となる3種の害虫アブラムシ類成虫に対する捕食量を調べました。その結果、ヒメカメノコはクロヘリよりも捕食量が多いことが分かりました（図1）。

さらに、圃場内で害虫アブラムシ類が少ない場合に代替餌として利用できる果菜類に害

を与えないアブラムシを明らかにするため、ムギなどに寄生する2種のアブラムシ類を与えた場合の産卵数を調べました。その結果、いずれのアブラムシ類を与えた場合にも、害虫のモモアカアブラムシを与えた場合と同等以上の産卵数であることが分かりました（図2）。

今後は、ヒメカメノコとバンカー植物を用いた圃場での利用法を開発していく予定です。なお、本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発」の中で実施しました。

（昆虫担当 安達鉄矢 088-863-4915）